いわてのNPO・ボランティア活動情報誌
2024 vol.1

PIN
ぱいん
Paper Iwate NPO

NPOのはじめの一歩！！「地域を支える」

- 連携事例集「NPO×行政」「NPO×企業」
- ユース世代に聴いてみよう
- 岩手県からのお知らせ
- 岩手県社会福祉協議会／ボランティア・市民活動センターからのお知らせ
- 活動から生まれたもの紹介「西山まちづくり会議令和6年度行事カレンダー」

西山まちづくり会議の皆さんとNPO法人まちサポ雫石さん

特集

はじめの一歩！「地域を支える」

Start!

地域の団体や住民活動を支える NPO の取組をご紹介。日々の活動や地域住民にとって NPO がどのような存在となっているかを交えてお伝えします。

NPO法人 まちサポ雫石

地域住民の想いを形にするサポーター

雫石町西山地区の地域運営組織である西山まちづくり会議では昨年度、情報部会を中心に令和6年度行事カレンダーを制作しました。コロナ禍で縮小した地域行事を継続・再開する際、行事の内容や参加対象をまとめたカレンダーを制作することで、行事に関わる人や参加者の取り合いを避け、役員の負担を減らしたいという地域住民の想いがあったからです。完成後、地区の約1300世帯に全戸配布され、活用されています。その制作過程で作業やデザインの相談に乗りながら、最終的に住民自身で形にできるようにサポートしてきたのがNPO法人まちサポ雫石です。

まちサポ雫石は、「地域づくり支援業務」や「まちおこしセンターしずく×CANの管理運営業務」を町から受託し、地域住民が何かを始める最初の一歩の支援や、町全体をつなげながら、子どもから高齢者まで笑顔あふれる元気なまちづくりを目指して活動しています。

組織設立の伴走支援

雫石町では、2015年に4つの地区公民館ごとに地域づくりの基本となる「地域づくり計画」を策定し、その後、町の地域づくり事業の一環として、※地域運営組織の設立に向けた話が進められてきました。

西山公民館では、「西山地区地域運営に向けた検討会」から「西山地区地域運営組織設立準備委員会」へバトンをつなぎ、準備委員会で約1年間の議論を重ねて、2023年3月に地域運営組織「西山まちづくり会議」が設立されました。

まちサポ雫石は、各地区の組織設立に向けた話合いで地域住民に寄り添い、伴走しています。具体的には、地域計画作成のアドバイス、検討会や準備委員会での話合いサポート、情報提供（地域の現状分析）などです。

住民同士で意見を重ねて検討していくためには会議の設計や準備が非常に重要なため、事前に西山公民館と町担当課を交えた3者の打合せにも丁寧に時間をかけたそうです。

西山まちづくり会議はまだ動き出したばかり。まちサポ雫石は、今後も地域の方々と一緒に歩みながら、地域内での認知を広げ、住民に期待される取組を進めていく予定です。

西山まちづくり会議
事務局　小田島さん

まちサポ雫石の櫻田さんはまさに相談相手であり頼れる存在です。

検討会で、地区の中学生以上の全住民を対象に行ったアンケートは、地域や行政、支援者が協力して実施し、92．5％という高い回答率でした。アンケートを取ったのは町内でも西山地区だけで、これが元になって組織の形ができています。

まちサポ雫石　代表 櫻田さん

地域を支える仕事は、こちらがいつも正解を持っているわけではありません。時には足が止まったり後退することもあるけれど、時間をかけてプロセスを一緒に踏んでいることが大切です。一緒に進むことで、実践を重ねながら地域も私たちNPOも、そして行政もそれぞれ力を付けてきていると感じます。

行事カレンダーの詳細は、裏表紙の「活動から生れたもの紹介」に掲載しています。

先進地視察のサポートも

※地域運営組織とは、総務省では「地域の暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織」と定義されています。

岩手県内でも高齢化や人口減少により、活動のマンネリ化や担い手不足が課題となり、集落機能の弱体化が懸念されてきました。そこで、行政も後押ししながら各地で住民が主体となって地域の将来を描き、継続していける活動や仕組みづくりを考えながら、組織設立の検討や実践が進められています。

NPO 法人まちサポ雫石

2011 年に「子育てサポート雫石」として子育て支援からスタート。2016 年から「まちサポ雫石」となり、人と町をつなぎ、まちづくりに関わることを一緒に考え、一緒に伴走し、実施するサポート等を行っています。

岩手県岩手郡雫石町上町南 19-19
雫石町まちおこしセンター（指定管理施設）
ＴＥＬ:019-629-6282
MAIL：m-center@shizukucan.com

Facebook↑

NPO活動交流センター こう使おう！

NPO活動交流センターでは、同じアイーナ内に設置されている岩手県立図書館の蔵書の中から、NPOや市民活動、社会課題解決、活動に活かせるノウハウ等に関する書籍を「おすすめ書籍」として毎月ホームページでご紹介しています。ぜひご覧ください。

例えば…

NPO活動交流センター
TEL：019-606-1760
MAIL：n-katsu@aiina.jp

岩手県 NPO 活動交流センター サイト→

Case study

連携事例集

地域課題の解決や社会貢献のための様々な活動について、NPO 単独で行うのではなく、企業や行政と連携・協働することで新たな成果が生まれています。岩手県内のそんな事例をご紹介します。

NPO× 行政

NPO 法人エンパワメント輝き × 洋野町地域包括支援センター

かがやきカフェの様子

事例 1

連携することで支援の幅を広げる

「認知症を有する方々やそのご家族へのサポートは、みんなが関わってトータルで支援していくべき。相談することのハードルを下げていきたい」と笑顔で話してくれたのは、NPO法人エンパワメント輝きで認知症地域支援推進員事業を担当する大光（だいこう）さんと、洋野町地域包括支援センターの舘さんです。

エンパワメント輝きでは、令和元年度から洋野町より事業を受託し、かがやきカフェ（認知症カフェ）の開催による当事者の居場所づくり、個別相談や家庭訪問などのサポートを行ってきました。認知症を有する方々の状況や対応は人それぞれです。できるだけ早く気付いて本人の意思を尊重しながら積極的に介入していくためにも、地域全体としての普及啓発も重要なので、町と役割分担して進めています。

洋野町地域包括支援センターは、広報を活用したカフェや相談先の周知、地域全体へ認知症の理解を深めるための普及・啓発活動等を担っています。上手に役割分担していくポイントは担当者同士のコミュニケーションで、日々のコミュニケーションで、サポート医を交えた毎月の認知症介護相談もその一つです。

大光さんは「専門医との場があることがとてもありがたい」と言います。舘さんも「行政のみで個別支援だけを行うのはマンパワー的に難しいので、NPOによる伴走支援が必要。状況は一人ひとり異なる中、NPOによる細やかな対応は地域に不可欠となっており、一緒にいろんな意見を出し合って幅広い支援ができる」と話してくれました。

認知症について以前より話しやすくなってきたものの、自身や家族の事となればまだまだ勇気のいるものです。もっと当たり前のこととして誰もが関わっていけるようにとの熱い思いを感じました。

認知症地域支援推進員 とは

2018年度から全国の市町村に配置され、各市町村が進める認知症施策の推進役、認知症の方の医療・介護等の支援ネットワーク構築の要役として活動しています。2019年度からはさらに、認知症の方も含めた高齢者が地域で役割を担い、生きがいを持つことを支援する「社会参加活動体制を整備する推進役」ともなっています。

洋野町では、同推進員、地域包括支援センター、サポート医（東八戸病院）の3者で毎月認知症介護相談を行いながら取り組んでいます。

ユース世代に聴いてみよう

Interview

ユース世代の活動とインタビューをお届けします

被災地支援学生団体 FCAI（エフシーアイ）

FCAI（エフシーアイ）は、令和6年能登半島地震を受けて、東日本大震災津波でいただいた支援を恩返ししたいと立ち上がった学生団体です。「繋げよう。未来に愛を。岩手から」を理念に募金活動からスタートし、現在は盛岡を中心とした運営メンバー17名、県内有志スタッフ、県外メンバー含めて約50名が参加しています。能登半島地震とその後4月に発生した台湾東部沖地震への義援金街頭募金活動は10回を超えました。

募金額や使途の透明性を強く意識しており、毎回必ずSNS等で報告しています。今後は、より広く信頼を得ながら、防災に関するイベントや被災地の学生同士の交流にも取り組んでいく予定です。

代表 鈴木煌人（きらと）さん：東日本大震災津波以降の復興・防災教育で学んできたことが、活動を起こすベースになりました。自分たちの世代から、防災教育の大切さや災害時に命を守るために一人ひとりが取り組む必要性を広めていきたいです。

副代表 神山ひなたさん：能登半島地震のニュースを見てこみ上げる心苦しさや衝撃がありました。最初は街頭募金での声出しに緊張したけれど、挨拶と募金の御礼を明るくしっかり伝えるようにしています。

副代表 大竹菜々美さん：東日本大震災津波時は3歳でしたが揺れた記憶が残っていて、「長期的に岩手からの恩返しをしたい」との思いに共感しました。同世代、下の世代、そして大人たちにも防災・減災の意識を伝えていきたいです。

NPO× 企業

NPO 法人未来図書館 × 陸中建設株式会社

未来パスポートプログラムの様子

事例 2

子どもたちに、未来への道しるべとなるような授業を！

NPO法人未来図書館は、2004年に岩手で初めて学校現場でのキャリア教育支援を始め、今年で21年目に入りました。宮古市の陸中建設株式会社との出会いは2021年。未来図書館の恒川さんは、地域貢献に積極的に取り組む伊藤代表取締役の活躍を耳にしていたそうです。伊藤さんの同級生が両者をつなぎ連携のきっかけとなりました。未来パスポートに社会人講師としての参加を続ける伊藤さんは、未来図書館の20年の経験からのアドバイスや細やかな対応は素晴らしく、子どもたちにも講師にも貴重な場だと感じています。

実は、企業と子どもたちが じっくりつながれる場は少なく、インターンシップや職場体験での中高生受入れでは、仕事内容の紹介がメインになりますが、このプログラムでは一人の社会人としての想いやこれまでの経験を伝えることもできます。「自社のPRにもなると同時に、子どもたちが地域への想いや自己肯定感を持って成長し、地域が盛り上がることになれば、会社にも良い社員が入るようになり、会社全体の飛躍にもつながる。社会教育の意味でも続けていく価値がある」と話してくれました。

6月25日に開催された第262回目の未来パスポートでも、宮古市立第二中学校2年生に地域としての可能性、社会人の楽しさや責任など、丁寧に一人ひとりの反応を見ながら話す様子が印象的でした。子どもたちはプログラムを通じて前向きになったり、未来への期待を膨らませていきます。

約2時間の間に彼らの表情や目の輝きが変わる瞬間が何度もあるそうです。講師自身がそうした手ごたえを直接得ることができるので、準備の労力やその場の緊張感もすべて自身の財産となる「共育」の側面もあります。NPOと企業がタッグを組んで子どもたちに真摯に向き合いながら、魅力ある地域づくりにもつながっていくと感じました。

未来パスポートプログラムとは

未来図書館が小学3年生から高校生を対象に行うキャリア教育の一つとして、多様な生き方・価値観を持つ社会人と子どもたちが相互に学びあうプログラム。学校単位で開催し、取組に賛同する企業・団体から参加する社会人講師のブースに、「未来パスポート冊子」を持った子どもたちがグループに分かれて訪れます。

ブースでは講師がそれぞれの想いや仕事の内容などを語り、職種によっては、実技を交えての交流が行われることもあります。子どもたちがグループごとに出会った講師を紹介し合って終了となります。

HP

総合リンク

HP

Instagram

認定ＮＰＯ法人取得・更新情報

認定特定非営利活動法人として
認定された法人をご紹介します！

2023年７月のボッチャ交流会集合写真

＝基本情報＝

理事長　平野 由起子
岩手県盛岡市紺屋町4番24号

特定非営利活動法人
スペシャルオリンピックス日本・岩手　サイト↑

2015年３月22日 ..... スペシャルオリンピックスの地区組織認証取得
2016年６月３日 ..... 法人設立
2023年11月30日 ..... 認定取得

特定非営利活動法人 スペシャルオリンピックス日本・岩手

スポーツを楽しもう！

スペシャルオリンピックスは、知的障がいのある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織です。活動を通して彼らの自立と社会参加を促進し、生活の質をより豊かにすることを目的として活動しています。

スペシャルオリンピックス日本・岩手は、日本における地区組織の一つで、現在、県内4地域で75名のアスリート（スポーツ活動に参加する知的障がい者）が、陸上、競泳を始め6つの種目で個々の運動能力に応じ、仲間と楽しく練習に励んでいます。これらの活動は多くの善意の寄付と協力をいただいて運営しております。

認定 NPO 法人制度に関する相談窓口

岩手県 環境生活部 若者女性協働推進室
認定 NPO 法人専門員（月曜～木曜 9:00 ～ 17:15）
019-629-5199

特定非営利活動法人制度の手引きを改正しました！

new! 手引き改正

近年のＮＰＯ法の改正、手続のオンライン化等を踏まえ、令和６年３月に特定非営利活動法人制度の手引きを改正しましたのでお知らせします。

この手引きは、ＮＰＯ法人の設立・運営に必要となる手続や申請書類の参考様式、関連法令をまとめたものです。

書類作成時のポイントや注意事項も記載していますので、申請・届出時などにご活用ください。

主な改正内容

縦覧期間の短縮
１ヶ月→２週間

補正期間の短縮
２週間→１週間

ウェブ報告システムに関する情報の追記

登記に関する情報の修正
資産に関する登記、その他の事務所の所在地の登記が不要になりました！
法務局

このほか改正した箇所は朱書きにしていますので、ＱＲコード先の県ホームページからご確認ください。

岩手県ホームページ→

ボランティア体験今年も始まっています！

手と手で紡ぐ　しあわせの輪
2024 ボランティア体験 in いわて

岩手県内各地で、子どもから大人まで、親子でも参加できるボランティア活動を紹介しています。主に高齢者、障がい者、子ども、各種イベントなどに関するボランティア活動です。お好きな方法で、ボランティア活動を探してみてください。

体験期間：令和６年 5 月 1 日～令和７年 2 月 28 日

検索・参加方法その１　パソコン・スマホから　ボランティア体験 in いわて

検索・参加方法その２　社会福祉協議会の窓口に「ボランティア体験 in いわてに参加したい」とご相談ください。

体験例１

環境整備、レクリエーションの補助

車椅子掃除、入居者とのコミュニケーション、レクリエーション活動

募集人員　１日あたり１～２人
期日・時間　令和６年６月～12月
活動場所　浮牛の里交流ホール、各ユニットフロア（北上市）

体験例２

障がいのある方と一緒に活動してみましょう

生活介護利用者の活動支援、就労継続支援Ｂ型利用者の作業支援

募集人員　２人
期日・時間　令和6年9月25日(水)
活動場所　あさあけの園（矢巾町）

体験例３

開館30周年ふれあいランド祭 2024運営ボランティア

屋台の調理補助・販売、フリーマーケット出店者受付、ニュースポーツ体験コーナー運営補助など

募集人員　100 人
期日・時間　令和６年9月1日（日）
活動場所　ふれあいランド岩手（盛岡市）

ボランティア保険について

安心してボランティア活動を続けるために、活動中のケガなどに備えて、まずは保険に加入しましょう！

個人で、ボランティア活動に参加する予定だけど、保険に入っていた方がいいかな？

ボランティアグループで行事を開催する予定だけど、行事参加者のケガに備えたい！

＊ボランティア保険は、**最寄りの社会福祉協議会**で加入できます。
＊加入手続完了日の翌日午前０時から補償開始です。お早めにお申込みを！
＊社会福祉協議会が関わらないイベントでも加入可能です。保険の詳細は、福祉保険サービスホームページをご覧ください。

福祉保険サービス
ホームページ

column

令和６年度能登半島地震への支援

岩手県社会福祉協議会では、県内及び全国の社会福祉協議会とともに、今年1月に発生した能登半島地震で被災した石川県内の社会福祉協議会（志賀町、珠洲市）への支援（災害ボランティアセンター運営など）を2月から行い、現在も継続しています。

また、発災以降、県内では高校生や学生による義援金募金活動をはじめ様々な形で、支援の手が石川県へ届けられています。

地震発生から半年が経過した現在も、復旧・復興は引き続き進められていますので、これからも必要な支援を続けていきます。

お問合せ
岩手県社会福祉協議会
ボランティア・市民活動センター
TEL:019-637-4483　FAX:019-637-7592

ずっぱりボランティアいわてサイト

いわてのNPO・ボランティア活動情報誌 PIN ぱいん 2024 vol.1
令和6年7月31日発行　発行：NPO活動交流センター
〒020－0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通1-7-1いわて県民情報交流センター「アイーナ」6F
TEL019－606－1760 Fax 019－606－1765
PINZ（ぱいん）は年3回、各2000部発行しています。

活動から生まれたもの紹介

活動の中から生まれた様々なモノがあります。そのストーリーや作る側の想いをご紹介します。興味が湧いたらぜひ実物を見に出かけてみてください！

カレンダーで地域行事を可視化！「西山まちづくり会議 令和６年度行事カレンダー」

雫石町の西山まちづくり会議では、西山地区内の17行政区の地域行事の開催日程を区長から上げてもらい、まとめて反映させた令和6年度行事カレンダーを発行しました。まさに住む人のための地域オリジナルであり、工夫が込められています。

工夫１ 表紙の地区全体地図。17行政区の位置と名前を入れることによって、めくった後も利用してもらうカレンダーに！

工夫２ 行政区同士のコミュニケーションのきっかけに！

工夫３ 地域の写真を公募し撮影者の名前も掲載することで参加型に！

カレンダー配布後、元々住んでいる住民だけでなく移住者からもわかりやすいとの反響がありました。お祭りも環境整備も野球大会も、暮らしに根付いている行事です。可視化することで、今後継続できる形を考えるきっかけにもなってほしいとの思いも込められています。

カレンダーの余剰分を今後の制作費用確保のために募金箱と共に下記の場所に設置しています！実物を手に取ることができます。

- 雫石町まちおこしセンター「しずく×CAN」
- 雫石町西山公民館
- OZASIKI（西山地区内の空き店舗を利用したコミュニティスペース）

西山まちづくり会議
（事務局：小田島充さん）TEL 019-693-3321

NPO活動交流センターからのお知らせ

NPO のための無料相談会

NPO活動で生じる税金、登記、DXなどに関する疑問にお答えする無料相談会を開催しています。

登記に関する各種相談
8/27、10/24、R7.2/6
講師：小山田 泰彦氏（司法書士）

税金・税務に関する各種相談
9/13、11/13、R7.3/4
講師：丹代 一志氏（税理士）

DX・デジタル技術活用による業務改善に関する各種相談
10/16
講師：中村 景一氏、大杉 結希氏（jinjer㈱）

【時間】①10:00 ～ ②11:00 ～ ③13:00 ～ ④14:00 ～（6日前までに要予約）
対象：岩手県内の NPO・非営利型一般社団法人
会場：NPO 活動交流センターまたはオンライン

詳細やお申し込み先など→

編集後記

PIN制作を担当して3年目となりました。少し慣れたようでまだまだ悩みながら進める記事の執筆や校正作業です。それでも取材でお話を伺う時間はとても楽しく、この時だけはページ数を増やしたい！とさえ思います。

2024年度第1号では、特集はじめの一歩「地域を支える」と、活動から生まれたもの紹介が連動した内容になっています。デジタル化が進み、予定の管理はパソコンやスマートフォンで確認という方も多いと思いますが、今回カレンダーをめくるワクワク感を改めて体験しました。

今年度は、これまでご紹介できていない地域や活動分野も意識して取材に回っていきたいと思っています。

（N.S）